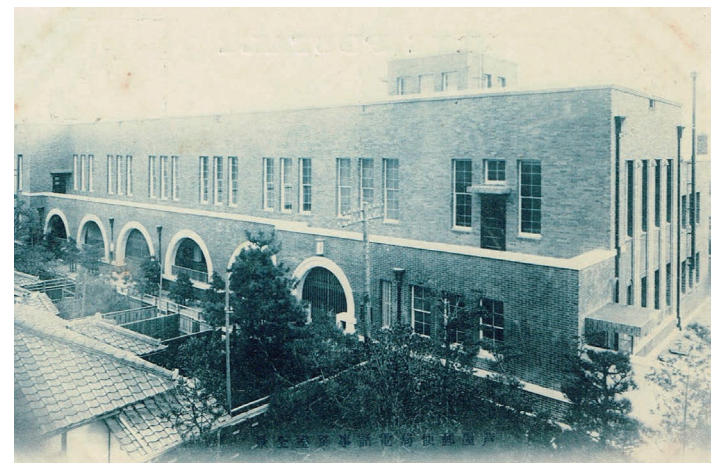




**電**話交換局として昭和4年(1929)に新築された建物です。この電話交換局を新築するにあたっては、地元に住む財界人等から職場と結ぶ電話が必要との強い要望が出され、当時の金額で40万円の寄付があったというエピソードがあります。太平洋戦争時の昭和19年(1944)頃には、防空迷彩のため外壁



竣工当時の外観

がコールタールで黒色に塗装されました。その後、昭和43年(1968)にはリシン吹付塗装によって、白色の外観となっていました。

- 所在地 芦屋市大槻町5-23
- アクセス JR芦屋駅より南西へ徒歩約5分  
阪神芦屋駅より北東へ徒歩約4分
- 備考 外観のみ自由見学可

**昭**和43年(1968)には電話加入者の大幅な増加のために別の場所に電話交換局(芦屋別館)

が新たに設けられ、その結果、昭和56年(1981)にこの建物は電話交換局としての役目を終え、昭和61年(1986)には保存改修工事が行われました。その際、外壁に塗られたコールタールやリシン吹付塗装が除去され、新築当時の茶色系のスクラッチタイルの外観を取り戻しました。外壁のスクラッチタイルには、現在もわずかにリシンの白い痕跡が残っています。その後、平成16年(2004)まではNTT西日本のお客様窓口として使用され、窓口廃止後、平成17

年(2005)より結婚式場・レストラン「芦屋モノリス」(株式会社ノバレーゼ)として活用され、現在に至ります。

なお、これまで、昭和29年(1954)に3階部分の増築、昭和31年(1956)に事務室などの増築や改修が行われていますが、ほとんど新築当時の外観を留めています。



昭和59年(1984)当時の外観/提供:(株)NTTファシリティーズ

## 国登録有形文化財

### きゆうあしやゆうびんきょくでんわじむしつ 旧芦屋郵便局電話事務室(芦屋モノリス)

所有者	西日本電信電話株式会社 (NTT西日本)
設計者	上浪 朗(通信省)
施工者	森田組
構造	鉄筋コンクリート造2階建
建築面積	732.0㎡
延面積	1694.44㎡
竣工年	昭和4年(1929)
登録年月日	平成29年(2017)6月28日
その他指定等	兵庫県景観形成重要建造物等





ししがしら  
獅子頭とレリーフの装飾。建築当初は大谷石製 (p.8) だったが昭和61年(1986)の保存改修工事の際に焼物製に取り換えられた。



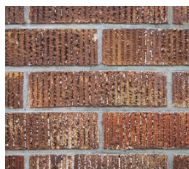
建物正面(北側)には連続アーチをもつ幅2mの側廊が設けられており、この建物のファサード(正面観)を特徴付ける。竣工当時にはサッシとガラスがなく、半屋外となっていた。



外壁は茶色系2色のスクラッチタイル張りで、濃い色を下に使うことで外観に落ち着きを与えている。

### スクラッチタイル

表面に<sup>く</sup>櫛状工具で細い溝を平行に引いたタイル。フランク・ロイド・ライト (p.15) が帝国ホテル(大正12年〔1923〕竣工)にスクラッチ煉瓦を使用したことを契機に流行し、戦前の建物に多く見られる。溝を引く際に生じる土のささくれは、「ワラビ」と呼ばれる。



2階の旧自動機械室と旧手動交換室(現在のメインダイニング)。天井が5.4mと高く、また、機械や交換台を容易に配置できるよう、中間柱を設けず、10m間隔で梁が架けられた。



2階の旧女子休憩室兼食堂(現在のゲストルーム)の天井には、漆喰による装飾が新築当時のまま残っている。



### うえなみ あきら 上浪 朗

明治30～昭和50年(1897～1975)。大阪府大阪市生まれ。大正11年(1922)に東京帝国大学建築学科を卒業し、<sup>ていしん</sup>逓信省に技手として務めた後、大正12年(1923)に逓信省技師となり、設計活動を行った。関西に現存する上浪朗が設計した建物では、旧芦屋郵便局電話事務室と旧姫路郵便局電話事務室(兵庫県姫路市)の2件が、竣工当時の姿を留めている。